

ひがしの子

令和5年1月10日
岐阜市立岐阜東幼稚園
園長 藤井 佐由美

あけまして おめでとうございます！！ 本年もどうぞよろしくお願ひいたします！

ただいまカラフルタウンでは、移住者のコーナー「ココカラ」というスペースに、岐阜東幼稚園と加納幼稚園の紹介動画や子どもたちが作成したお正月の作品などが、1月13日まで飾られています。是非、足を伸ばして行ってみてくださいね。

園長先生マジックは、効果があったようですね・・・

12月23日の終業式に、子どもたちに魔法（CDの色が変わるマジック）をかけました。一つ目は、「知らない人についていけないこと」、二つ目は「病気や事故にあわないこと」、三つ目は、「いっぱい頭や体を使って遊ぶこと。」です。冬休み中、特に心配な連絡が入らなかったことを見ると、どうやら子どもたちにかけた魔法は効いたみたいですね。安心しました。



2022年の岐阜東幼稚園は、いろいろなことがありました。施設面の大きな工事としては、テラスに温水シャワーがついたり、ホールに整理棚や新しい靴箱が設置されたり、駐車場の砂利が整備されたりしました。そして、この冬休み中に、ホールの床を工事していただき、温かみのあるオレンジ色の長尺シートが貼られました。年長児の靴箱の辺りの床が高くなり、床面積が増えています。これでまた、子どもたちとの生活が楽しみになりました。

他には、年長児に小学校で使用している同様のタブレットが導入され、子どもの興味・関心に合わせて様々なアイデアで活用し保育が豊かになりました。その実践が教育委員会に認められ、教育委員さんなどに向けて定例会で発表させていただきました。そのつながりで、岐阜聖徳学園大学の芳賀高洋先生、岐阜聖徳学園大学短期大学部の糟谷咲子先生方にも認められ、教員向けの研修を実施していただき、来年度から大学との連携により更にICT活用の支援をしていただけることになりました。そんな中、11月には東京からの視察もあり、今、岐阜東幼稚園は、全国から注目される幼稚園になりつつあります。

また本園は、名古屋学芸大学の津金美智子先生や愛知教育大学の加納誠司先生、岐阜女子大学の松井徹先生、岐阜聖徳学園大学の松本信吾先生などなど、様々な専門分野の先生方に支えられております。

岐阜聖徳学園大学とは、これまでも教育実習生を受け入れていたり、同大学の西川正晃先生に保育の助言・指導や講演を依頼したりと関わりが深くありました。岐阜市教育委員会の水川和彦教育長により、岐阜東幼稚園の実践を大学側にご紹介していただいたことで、同大学の学生向けの講義（授業）の中で、本園の YouTube 動画を取り上げてくださる先生が2人もいらっしゃいました。お二人とも、本園の子どもたちの「探究力」について、絶賛してくださっています。その中で、岐阜聖徳学園大学教育学部の2年生の学生への「特活・総合指導法」の授業（福地淳宏先生）において、YouTube 動画「知的好奇心・探究心を育む幼児教育 何だろう！？プロジェクト 年長児シャボンの取り組み」を見た学生さんからの感想をいただきましたので、一部紹介させていただきます。

- ①幼稚園児の学び姿を見て、たくさんのお話を学んだ。まず物事に対する好奇心・興味をもつことが大切であり、「学習」「学び」というよりも、「知りたい」「もっとやってみたい」という気持ちや行動こそが、探究的な学びの本質ではないかと考えた。また、子どもの「やりたい」「知りたい」という小さな好奇心に気づき、それを広げ、自分たちでやったという経験をさせるためのサポートや環境を準備することが大切だ。
- ②今回の授業の最初のビデオに出てきた幼稚園児の姿が、羨ましくらい生き生きして見えた。今の私たちには考えられないような発想、学習意欲を持つのが子どもたちの良さであると改めて感じた。私も、子どもたちの探究心をうまくサポートできるような授業内容を考えたいと強く感じた。
- ③小さな疑問を、全体を巻き込むほどの探究心に変えることができる子どもたち、それに協力できる先生、親のサポートがあってこそ実現できるものだと感じた。
- ④授業の初めに見た岐阜市の幼稚園では、子どもたちが考えたことを自由に行って表現する環境や雰囲気は日頃からつくられているなとすごく感じられた。保育士だけでなく保護者も、子どもたちの興味・関心を否定することなく、最大限に広げることが大切にされている点が素晴らしい。

これから教師を目指す学生さんたちが、本園の子どもたちの様子を見て、このように感じてもらえることには大きな意味があると思います。

全ての子どもは自ら学ぶ力をもっています。大人は子どものまなざしの先にあるものに気づき、願いを達成できるように環境を整えたり、考えたり、援助したりすることで、共に創り上げていく過程を大切にすることが求められているんですね。幼稚園では、そこに素敵な仲間がいることが強みです。対話的な関わりを大切にしながら、一人一人が様々な感情を味わい、充実した3年間を過ごしてほしいと考えています。

これからも保護者の方と共に、歩んでいきたいと考えておりますので、些細なことでも結構ですので、情報共有させていただけると幸いに思います。



《1月の保育について》

【3歳児】

<ねらい>

- いろいろなお正月遊びに興味をもつ。
- 気の合う友達と一緒に同じ遊びを楽しむ。

【4歳児】

<ねらい>

- 自分なりの表現を楽しんだり、いろいろなことに挑戦したりする。
- 友達の思いを聞いて理解しようとする。

【5歳児】

<ねらい>

- 友達と考えを出し合いながら遊びを進めることの楽しさを感じる。
- クラスみんなで一つの目的に向かって取り組む楽しさを味わう。



お知らせとお願い

◇保護者参加の行事や保育について

本園の教育は子どもが主体の教育です。子どもの興味・関心に基づいて大まかな保育をデザインし、それを広め、深めるためにどんな環境を整えるとよいか、どんなつながりを持つと深まるのかなどをその都度計画していきます。そのため、保護者にこれまでもたくさんのご協力をお願いしてきました。急なお願いごとにも関わらず、快く力を貸していただきまして本当にありがとうございました。心より感謝いたします。反面、急な計画もあり、ご迷惑をおかけすることも多々あったと思います。無理をしてお仕事の都合をつけてくださった方、都合がつかず参加をやむなく断念された方などには、心よりお詫び申し上げます。

特に現年長児は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大切な入園の時期に2か月間休園となり、6月から幼稚園が始まった子どもたちです。各行事もままならない時期を過ごしてきた子どもたち子どもたちの願いを少しでも多く叶えてやりたいと考えています。

今後も、急な計画が入るかもしれません。子どもたちとの話し合いの上で、決定したら速やかに保護者の方にもお伝えしようと思います。ご迷惑をおかけすることがあると思いますが、どうかご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

◇新型コロナウイルス感染症に関わる教育活動について

1月に入り引き続き、感染症が猛威をふるっています。感染者数は岐阜県で過去最高を更新しました。これまでと同様、感染症対策をとりながら、可能な限り教育活動を継続していくつもりです。保護者の方も、基本的な感染症対策にご協力ください。

園児のマスク着用については、保護者の方の責任の下ご判断ください。幼稚園では必要に応じて（給食の前、歌をうたうとき、幼稚園児以外と関わる時、事前に密集することが分かっているときなど）マスクを着用します。やむを得ず常時マスクを着用しない場合は、幼稚園までお知らせください。すでに申請している方は不要です。

